



ハットクラブだより

No. 30 2010年6月30日発行

平成22年度 総会 開催

平成22年度(2010年度)年次総会が6月6日(日)、来賓に倉田市長、二石市議会議員、森田教育長、荻野国際交流協会理事長をお迎えし、会員22名の出席のもとライブプラザ大会議室で開催されました。

冒頭、佐藤会長より、ハットクラブは14年目を迎えるが、市民主体の国際交流を進める市民団体としてしっかりした基盤を確立してきた。姉妹都市交流は長く続くことに意義があり、私たちはその歴史の一端を担うものとして活動の領域を広げていきたい、との挨拶がありました。

来賓の方々からもご挨拶をいただきましたが、特に倉田市長からは当クラブの長年の努力を多とするとともに、任期中に何とかハット市を訪問したいとの希望が述べられました。また、新任の国際交流協会荻野理事長からはこれまでの協会への批判を率直に受け止め、市民団体をサポートする役割も強化していくとの発言がありました。



冒頭の挨拶をする佐藤会長。右奥は来賓の倉田市長

議案としてはまず、平成21年度事業報告、決算報告、会計監査報告が原案通り承認されました。次に、会則の変更として、昨年の総会で既に議決されている個人会員の年会費2,000円と新たに団体会員の年会費10,000円が導入され、承認されました。続いて、新年度の事業計画案(詳細は下記)、予算案が原案通り承認され、最後に運営委員の一部の交代(詳細は六面参照)が承認されました。

総会の後は、場所を移して懇親会(茶話会)が開かれました(詳細は二面参照)。

平成22年度 事業計画(案)

1)平成22年度総会	6月
2)懇親会	6月
3)お茶会(西江寺蟲供養)	10月
4)NZワイン・テイasting	11月
5)クリスマスパーティ	12月
6)NZ料理教室	平成23年2月
7)お花見	4月

定例活動:

- 1)英会話サロン(月例、年10回)
- 2)運営委員会(月例、年11回)
- 3)会報(1月、6月、年2回)
- 4)広報(ホームページ、NPOフェスタ)

総会後に茶話会開催



茶話会ではクラブが用意した和菓子とお茶を楽しみながら、参加者全員が順番に近況やクラブへの要望などを話しました。さまざまな入会の動機、健康問題を抱えているが出席できたことの幸せ、過去の思い出や感慨、クラブへの希望や抱負、等が自由に語られました。

橋本節子さんからは折り紙教室を開催したらどうかと提案があり、運営委員会で検討することになりました。

クック&テイスト NZラムの集い

2月に当クラブの新企画としてニュージーランド料理の集いを開催しました。

まだ日本ではなじみの薄い料理ですが、ラムのロースト、シチュー等、デザートにはニュージーランド伝統のケーキ“パブロヴァ”も焼きました。参加者全員エプロン姿で大奮闘！食材も調理法も初めてづくしでしたが、無事完成して全員でテーブルを囲み、焼きたてを賞味しました。味はもちろん抜群の美味、アットホームな雰囲気で大好評を博しました。尚、ラム肉はANZOCフーズ様より特別価格でご提供いただきました。

当日参加ご協力下さった皆様有難う御座いました。（木村 美智子）



万博公園でお花見

4月2日（金）、万博公園にて当クラブのお花見を開催しました。前日まで雨続きでお天気が心配されていましたが、当日はなんとか雨も上がり、きれいなお花を楽しむことができました。参加者は外国人講師2名を含む13名と少人数でしたが、桜を鑑賞しながら散策や写真撮影をされる方、また近くで開かれていた陶器市で買い物をされる方、と各々の「お花見」をし、その後桜の木の下に皆集合してお弁当や「My酒」を広げて楽しい一時を過ごしました。来年は晴天の下でお花見ができますように…。（藤田 安奈）



● ハットクラブ 会員のひろば ●

★会員からのご寄稿やご意見などを紹介するページです★

Takashi's Memorial Walkway in Hutt City 記念碑の行事に参加して

橋本 節子

今年ハット市との国際協力都市締結15周年に当たり、記念すべき年にハット市を訪問できましたことは何よりの喜びでありました。亡夫 橋本 卓は数年前よりハット市に桜並木を植樹したいとの願いを持っていました。先般David Ogdenご夫妻が橋本のお参りに自宅を訪問された折に、彼の遺言としてハット市に寄贈したい旨を申し出ました。ハット市現市長夫妻、歴代市長夫妻、関わりの方々のご尽力により Takashi Hashimoto Memorial Walkが完成し、その開設式のリボンカットのセレモニーに、娘と友人9名でハット市を訪問いたしました。



ハット市役所の横を流れる小川「ネオブストリーム」に沿って桜の苗木を列植し、木々の間に訪れる人が憩える木製のパークベンチを合わせて設置してあります。当日は晴天に恵まれ多勢の人達がセレモニーに参加して下さいました。数年後には桜が開花するのが楽しみです。また箕面市ハット市友好ハウスに好ハウスには、彼がこよなく愛したハット市を末永く見守りたいという願いを叶えていただきました。記念碑はポーフェヌアを彫刻された Bryce Manukonoa氏が、マオリの原生林で育った

樹齢700年のトータラの木材にマオリの守り神を彫刻していただきました。

私はよく友人知人からなぜNZハット市なの？と尋ねられます。それは人間が生きていくのに大きな大切なもの、“如何に人生を過ごし、生活し暮らしていくのに必要なものは何か”を見つけられる国。何よりも世界一安全な国です。日本は昔から遣唐使を派遣したりして、この島国から飛び出し異文化を知り理解してきました。自国に無いもの他国の文化を知り交わるという事は様々な知識と考え方、両足を大地につけて生活するために大切なことです。百聞は一見に如かず。交流の大切さを経験していただきたいと切望します。

今日を迎えるにあたり、支えていただいた皆々様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



○箕面市とハット市の国際協力都市のあゆみ

1995.07	国際協力都市としてハット市と調印 Evans市長
1996.08	ハット市友好クラブ発足 小枝、高野、佐藤現会長
1997.12	箕面市施行40周年記念式典 Terris市長一行参加
1999.05	箕面市ハット市友好ハウス開所式
1999.07	ポーフェヌア(メイプルホール)除幕式
2000.09	橋本卓ハット市名誉市民賞授与される(外国人で唯一)
2005.02	ハット市箕面市友好ハウス建築100周年式典に参加
2005.09	国際協力都市調印10周年 ハット市訪問
2010.02	国際協力都市調印15周年 ハット市訪問

この4月から、阪大への留学生の「ホームビジット」を引き受けている。ブラジルからの国費留学生で、26歳の日系4世男性、4年間の帯日予定だ。「ホームステイ」と異なり、お互いにスケジュールが合う時だけ、一緒に行動を共にするプログラムなので、お互いに気が楽にやれる。世界各国から 今年約40人が箕面を含めたこの地域で同様の体験を始めている。家に招いたり、箕面の滝を案内したり、メールを交換したりとしている。

ブラジルは2014年のサッカーW杯、2016年のオリンピックとこれから注目の国だ。しかし、私には遠い。最近書店でブラジルの観光案内書を探したが、見つかるのは容易ではなかった。これからの彼との交流がブラジルを近い国にしてくれたら、と楽しみにしている。

字幕なしで洋画が見たい！ー私の英語学習法ー(前編)

田島 誠次

字幕なしで、洋画を楽しみたいーそれが、英会話における私の目標だ。コツがあれば、教えてほしい。英会話サロンのテーブルで、米人インストラクターに尋ねてみた。「タジマさんは、部分的に理解はできるのですよね？」一瞬、インストラクターは目をそらし、こう続けた。「解る部分を少しずつ、増やせばいいですよ」。コツは、どこにあるのだ？ 根気よく勝負せねばならんということか？

皆さんご存じのとおり、我々の英会話サロンには、まだまだネイティブの講師が不足している。ある時、私がジョン氏に相談すると、彼の婚約者が講師になってくれそうだと言う。彼女の名はマサコさんといい、日本育ちだが英会話の力は申し分ないそうだ。どのように勉強をされたのだろうか？ジョン氏に尋ねると、「映画ですよ。マサコの母親は、マサコが幼い頃から洋画をずっと見せていたのです。字幕を隠してね。」字幕なしで洋画を？ はなから字幕を隠して見ればよいのだろうか？ 我が家の長女は、字幕ナシ派だ。「アメリカ映画は、移民の娯楽のために作られているんや。画面を見るだけで、6割から8割はお話が理解できるように作られているんよ」と言う。字幕の文字を読んでおったら、逆に画面上の情報を見落とす。画面をよく見ておれば、ストーリーも追えるし、英語のセリフも自然に理解できる、というわけだ。

私はまるで、音楽を聴くような調子で映画を見て喜んでいたふしがある。日本に住んでいる限り、それほど英語を使う機会もない。「理解できませんなあ、もっと勉強せなさいけませんなあ」と向上心に燃えながらも、発展途上。それでも、まあいいか、と思っていた。だが、先述の長女の夫は、アメリカ人俳優。私から送るメールや国際電話も、英語でしっかり行いたい。洋画の感想を述べ合ったりできれば最高ではないか！子供の頃、進駐軍を相手に憶えた「ギブミーチューインガム」から、幾度となく国際派になることを夢みた私だ。よし、洋画を字幕ではなく、画面に意識を集中して観てみよう！世界の美人女優の艶姿をフندانに楽しむオマケもついてくる。

映画を観ることは、情報のインプットだ。どんどん、英語のセリフは耳に入ってくるものの、自分から言葉を発する練習にはならない。家内が「お父さん、本気でやるなら外人教師にマンツーマンで習いに行きなはれ」と勧めてくれた。そこで私は、石橋ではイギリス人の教師、小野原でアメリカ人教師について、月2回程度、会話の練習を始めた。(続)

田島さんがたどり着いた、英語学習のコツとは？この記事は、次号につづきます！



Those Mystery around Me

When I came to Japan almost two years ago, I will admittedly say that I knew very little about this country. While everything in my surroundings was new and different, the thing that I understood the least was the language. Whether it was the chatter of my students, advertisers calling out in front of shops and restaurants, or the blare of the TV, when I first got to Japan, I understood nothing of it. In fact, at that time, I knew so little Japanese that I didn't even know how to say “はい” or “いいえ”. “What are people talking about?” I used to wonder to myself. With these perplexing feelings, I launched myself into my studies of Japanese. I was so desperate to learn that every new word learned was like a small clue to understanding that mysterious language I heard all day everyday.

Now that I can generally understand the conversation around me, this mystery has been replaced by understanding: Japanese people talk about exactly the same things I do.

From shallow topics like food and clothes, to more important matters of education and politics, people think and talk about the same things over the world. Even though this conclusion is actually far from exciting, the way that I had to reach it, learning Japanese, was well worth the effort.

「私の周囲の謎」

およそ2年前に日本へ来たとき、私は日本について何も知らなかった。身の回りすべてが目新しく違っていたが、最も理解できないのは言葉だった。私の生徒のおしゃべりやレストランや店先の呼び込み、日本のテレビのけたたましさは、私が日本に来た時はどれも理解できなかった。実際、当時は「はい」や「いいえ」をどのようときに言うのかさえわからないくらい日本語を知らなかった。「みんな何を話しているの?」と思ったものだった。こんなとまどいから日本語の学習を始めた。必死に勉強したので、新しく習ったそれぞれの新しい言葉が、毎日聞く謎の言語を理解するちょっとした手がかりとなった。

今では私の周りの会話はだいたい解るので、この謎は理解に変わった。日本人は私と全く同じことを話していた。食事や服といったたわいのない話題から教育や政治といった重要なことがらまで。人々は世界中どこでも同じことを考えたり話したりする。日本語の学習でたどりついたこの結論は単純だけど、努力した価値が十分あった。(編者意識)



ハット・ニュージーランド通信 What is new in Hutt city and New Zealand?



●学校に緊急用貯水タンクを設置

Large tanks to hold water for emergency use are being installed around Lower Hutt. They are being installed in schools. Most schools are civil defence assembly places for use if people have to leave their homes in an emergency. The project will take three years to complete.

(ハット市では学校の校庭は緊急避難所になっているが、そこに貯水タンクを設置する事業が始まり、すべての学校に敷設するには3年かかる。)

●今年のお花見は9月19日(日)

Hanami at Minoh House will be on Sunday, September 19. The weekend before there will be sakura viewing at the Hashimoto Memorial Walk in Riddiford Park. If it rains we will have less sakura viewing and more coffee!

(「お花見」オープンハウスは友好ハウスの年間最大行事で、さまざまな日本文化が市民に公開される。今年は9月19日(日)だが、その一週間前には今年オープンした橋本卓遊歩道でお花見を行う予定である。)

●友好ハウスは日本文化センター

Tea ceremony classes at Minoh House are full and there is a waiting list. Minoya San, who is the director of the Japan Culture and Information Centre in Wellington, is the tea ceremony sensei. There are also three Nihongo classes every week plus ikebana class.

(友好ハウスでは毎週三回の日本語教室や生け花教室が開かれている。特に、茶道教室は満員でキャンセル待ちも出ている。先生は日本大使館の広報文化センター所長の箕谷さんである。)

(寄稿:ローズマリ・マクレナン 2010年6月24日)

ハット市に橋本元市長の記念遊歩道がオープン

本年2月、ハット市に故橋本元市長の名前を冠した遊歩道「Takashi Hashimoto Memorial Walkway」がオープンしました。故橋本元市長は箕面・ハット姉妹都市提携の生みの親であり、その多大な功績に対しハット市から名誉市民の称号を送られました。2008年3月に急逝されました。今回、橋本元市長の功績を記念し、オグデン市長以下のハット市

議会の賛同により、ハット市中心部に桜の木を列植しベンチを配した記念遊歩道が完成しました。

このオープニング式典が現地で盛大に催され、未亡人の橋本節子さんを中心に箕面市民有志が参加されました。

当日の詳しい模様は橋本節子さんに投稿していただきましたのでお読みください。

■クラブからのお知らせ

① 運営委員の交代

3年間運営委員として活躍された西出勝昭さんが辞任され、補充として田島誠次さんが選出されました。西出さんは2008年ハット市を訪れた市民訪問団の幹事として活躍し、また堪能な英語力を駆使して貢献されました。田島さんは運営委員として再登場ですが、経験の深い英会話サロン分野での活躍が特に期待されます。

② 折り紙教室の開催

本年度の総会および茶話会で橋本節子さんから提案のあった折り紙教室について、これはハットクラブの(公式)行事ではありませんが会員間の同好会的活動として、運営委員会も応援していくことになりました。第一回は7月10日(土)午後1時、ライフプラザ会議室5です。詳しいことは橋本節子さんまでお問い合わせください。(電話:072-730-0708)

③ 志茂 正氏 ご逝去

会員の志茂正さんが3月19日ご逝去されました。志茂さんは長年の会員で高野会長の時に副会長をされました。また会報「ハットクラブだより」を長年一人で編集されました。ここに生前のご貢献に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

④ 会報へ投稿を

今号から会報を6ページに増やし、投稿欄「会員のひろば」を新設しました。会員が自由に発言し交流を深める場です。奮ってご投稿ください。字数は概ね原稿用紙3枚1200字程度までとし、随時受け付けます。

《編集後記》

3ページの記事を書いて下さったValerieさんは、前回の英会話サロンを最後に日本を離れることとなりました。私は講師の方々を車で送り迎えしているのでよく分かるのですが、彼女はいつも明るくて他の講師にも人気者でした。彼女の新天地でのご成功をお祈りします。また、ご逝去された会員の志茂さんは、会報の編集をなさっておられたということで、編集委員の一人としていろいろお話をうかがえたかったです。ご冥福をお祈りいたします。

この会報もおかげさまで30号を迎え、今号からページ数を増やして「会員のひろば」を新設しました！投稿があるか不安でしたが、さっそく数件素敵な投稿をいただき、胸をなでおろしました。今回投稿して下さった3名の方に感謝いたします。ぜひ他の皆様も積極的に投稿していただき、会員の皆様のきずなを深める一助になればと期待しています。(H. A.)